

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
大学院生研究
2007年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院			研究科	現代心理学研究科	専攻	臨床心理学専攻
指導教員	所属・職名			氏名			
	現代心理学部 教授			箕口 雅博 印			
自然・人文の別	自然 ・ 人文			個人・共同の別	個人 ・ 共同 名		
研究課題名	児童虐待問題への予防的介入- 虐待予防アセスメントスケール作成の試み-						
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年			氏名			
	現代心理学研究科臨床心理学専攻 博士課程前期課程1年			米山 祐子 印			
研究組織	在籍研究科・専攻・学年			氏名			
研究期間	2007			年度			
研究経費	200			千円			

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

児童虐待問題への対策としては、予防的アプローチの重要性が指摘されている。現在は子育て支援事業がその役割を担い、様々に展開されている。しかしその事業の多くは養育者の自発的な参加を前提としているため、自ら支援を求めてこない家庭には支援が届きにくいことが課題となっている。児童虐待発生の予防的介入モデル検討のために、今年度はそのために必要な予備調査を行った。まず、地域において母子保健活動の中心を担っている保健センターの保健師を対象に面接調査を実施し、日々親子と出会う中でどのようにアセスメントし、対応しているかについて明らかにすることを試みた。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[児童虐待] [保健センター] [予防的アプローチ]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

現在、子育て期の親子に関わる機関の一つに市区町村の保健センターが挙げられる。保健センターの母子保健事業では乳幼児検診の他に家庭訪問や電話での相談など、保健師による親子への積極的なアウトリーチ活動が実践されている。そこで本研究では、保健センターにおける児童虐待予防のための介入・援助について明らかにし、心理臨床家の貢献の可能性を検討することを目的とした。

方法

調査協力者は A 市保健センター保健師 3 名で、保健師の経験年数はそれぞれ 4 年、7 年、10 年であった。調査は面接調査で行い、2007 年 12 月に 3 名に対して約 1 時間の半構造化面接を実施した。業務内容、親子のどういった点を見ているか、どのように親子をとらえているについてたずねた。

結果

A 市は都内まで電車で 20 分程の郊外に位置し、若い世帯の転入が多く、平成 19 年の人口は約 125,000 人で人口は常に増加傾向にある。出生数は年間約 1,400 である。

保健センターの母子保健事業は、乳幼児健診、子どもの発達相談、母親学級、新生児訪問、相談などがある。親子との関わりは、妊娠届けが提出され母子手帳を取った時点から始まる。妊娠届けは全てチェックされ、届け出が遅い、双子を妊娠している、高齢出産、外国人などの母親の場合、妊娠中から連絡が取られる。

新生児訪問：A 市は出生数が多いため新生児訪問は委託の助産師によりそのほとんどが行われているが、前述のように妊娠中から把握していたり、リスクがあると考えられる場合、地区担当の保健師が直接訪問することになっている。助産師によって訪問された場合に支援が必要だと判断された場合には地区担当の保健師に情報があがってくることになっている。新生児訪問では、育児不安や母親の精神状態の不安定さ、育児能力の低さなど、初期的なレベルでのリスクを把握することが可能になっている。

乳幼児健診：A 市の乳幼児健診は 4 ヶ月、10 ヶ月、1 歳 6 ヶ月、3 歳を対象に行われ、保健センターでの集団健診の形態をとっている。健診は 1. 受付 2. 問診 (保健師・看護師) 3. 計測 (看護師) 4. 診察 (医師) 5. 相談 (保健師)、の流れを基本的にとっている。そこに年代によって、離乳食のデモンストレーション、歯科検診などが入る。10 ヶ月児健診では、虐待予防のためのグループワークが「聞かせてママの気持ち」というテーマで行われている。健診後にはカンファレンスが行われ、全体を通して気になった子どもがいたか等について情報の共有が行われる。

健診は多くの支援のきっかけになる場合が多く、支援が必要だと思われた場合、問診の段階で保健師が訪問や相談の約束を取るなどして、親子とのつながりをつけている。集団健診であることから、保健師が直接子どもの体の状況や母親の精神状態をみることができ、健診の場で拾えることが大きい。

相談活動：保健師による相談は電話、訪問、来所による相談がある。家庭訪問は保健師が一人で行く場合がほとんどであるが、場合によって関係機関の職員と同行で訪問することもある。

訪問：訪問では、地域の環境、家庭の状態を見ることで、親子の生活が見えてくる。家の状態や家事のされかたによって、母親の調子が想定できたり、そこでの子どもの生活や安全も推測することができる。また、保健師は体のことを見に来た、ということで子どもの体をみることが可能であり、また眼瞼のチェックなども行うことがある。

研究成果の概要 つづき

相談：保健師による相談は、検診時、訪問時の他に、来所による相談、電話相談が行われている。相談の場において保健師は、第1に母親の話に耳を傾け、そのおかれている状況から現在の生活に至るまでの背景を理解することを重視している。母親を支援が必要な人と捉えて、子育てが順調でないことを責めるのではなく、どのようなことが必要かを一緒に考えていく存在として認知されることが、介入する上で必要とされている。必要でだと考えられる支援よりもまず、母親が困っていることを対象にすることで、介入に対する抵抗を下げ、その後の支援の展開を可能にしている。

考察

保健センターの活動は保健師が主役となっており、その能力、ネットワークと経験は他の職種には真似できないものがある。また、利用者側は保健師に「体の健康を見る人」という認識があるため、家庭訪問を受けることや子どもの体を見せることに抵抗が低く、家庭について多くの情報を得ることができる。新生児訪問や乳幼児検診を通して地域のほぼ全ての親子との関わりを持つという点も特徴で、虐待のスクリーニング機能を果たし、育児不安の強さや子どもとの関わりに不自然さが見られた場合などに必要な支援へつなぐ、支援の入り口ともなっている。また、医療モデルではなく公衆衛生モデルに基づいており、予防の観点からの支援という意識が高い。支援に必要な親子との関わりは、保健師は子どもの発育・発達の状況確認、母親や家庭内・外環境の把握、利用できるサービスや他機関の紹介、母親への相談援助、育児等に関する指導など、生活全般にわたり目を配り状況を把握している。

母親が出産後地域に戻り最初に出会う社会的資源は保健センターであろう。子育てが孤立しがちな中で、保健師は母親の支援者として一番身近なものかもしれない。また、保健師も母親を支援を必要としている人として捉えている。保健師の活動はまさにコミュニティアプローチであり、子育てに困難がある母親に対して出向いて支援を展開し、問題となっている地域に潜在してしまうリスクの高い家庭への支援を提供している。これら保健師の活動がより効率的で機能的になることで、さらに多くの家庭に支援が行き渡ることになるだろう。このことは児童虐待の早期発見・早期介入に大きく貢献するものであろう。

ここで考えられるコミュニティ心理学的アプローチは保健師に対するコンサルテーションである。支援に必要な親子に対しての相談援助のスキルや、親子関係の発達を見通す視点等においての知識を提供することで、保健師がより親子の理解を深めることが可能になるだろう。また、出産から子育てが始まるというライフイベントにより、乳児を育てる母親は危機状態にあるといえる。コミュニティ心理学の危機介入理論は、保健師の日頃の活動を裏付け、今どのようなレベルでの支援をしているのか、どのように進めていくか、といったことについて確認ができるようになり、自身の活動をより理解し、その意味を感じられるようになるだろう。保健師に対するエンパワメントを目的として、その専門性と能力を十分に発揮できるように関わることも必要であると考え。保健師への心理コンサルテーションを通して、親子の関係についてのアセスメント力を高め、予防的アプローチの発想と方法をさらに強化していくことがこの領域においての心理臨床家の役割となるだろう。また、一般的な保健師の専門性を超えて相談業務や精神障害を持った母親の対応、子どもの発達障害の兆候などにも対応していることでの、不安や疲労感は大いなるものであろう。そこへのエンパワメントによって保健師がその能力と専門性を発揮できるように関わっていくことが最も重要なことではないだろうか。

これまでに述べたようなコンサルテーションを可能にするには、保健センターの機能、他機関との関係、保健師の専門性や親子との関わりにおける視点、その保健センターの管轄地域の特徴を理解しておくことが必要であろう。さらに、保健センター内で、心理職がどういった専門性を持ち、保健センターの活動に貢献することができるのかについての理解を得ることも、心理臨床家に求められるだろう。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

④日本コミュニティ心理学会第11回コミュニティ心理学会大会(2008年6月14日、15日開催)において発表予定。